

第4回奈良県食品安全・安心懇話会

各委員からの質問・提案まとめ

平成17年度食品安全・安心行動計画

《事業・目標・課題・今後の方針について》

視点1 消費者への食品安全・安心確保のための推進

	委員名	意見欄	
1. 消費者との相互理解と意見の反映	瀧川委員	・現地見学やそこでの意見交換はよいが、人数が限られるのでシンポジウム等を開催していただきたい。	要望
	上田委員	・懇話会における情報の共有化、相互理解のためのディスカッションの場(時間)の設定。 ・リスクコミュニケーションの送り手(食品等事業者)からの積極的な情報提供。	提案
	中尾委員	・勉強会や情報提供の場を与える対象が一般の大人向けであり、平日開催になると限られた人たちになってしまうのではないかと。世代別または、高校生向け等、対象を特定化(区別)して開催してはどうか。	提案
	山本委員	・産地視察、検討会の実施。	提案
	清水委員	・安心安全学習会は人数が限られるため、「食の安全」に関するシンポジウム等を開催すると多くの方に参加してもらえるのではないかと、「健康」を絡めるなど、消費者を引きつける仕掛けが必要。その際には、「共に考える」という立場に立ったリスクコミュニケーションを心がけて頂きたい。	提案 要望
	福山委員	・意見交換会や安全・安心学習会等の開催を南北に分けるとかして広い範囲でお願いする。	要望
	福原委員	・得られた意見はどのような形で消費者に反映されるのか。	質問1
2. 食品の安全に関する情報提供・公開の推進	瀧川委員	・予定企画の概要(いつ、どこで、内容等)を記載いただきたい。 ・目標の「x3」に意味は。	質問2
	上田委員	・生産者、食品等事業者の食の安全・安心に係る情報の積極的な提供の場の提供。	提案
	中尾委員	・学校給食の実態等の情報提供。	提案
	山本委員	・栽培歴のコンピュータによる公開。	提案
	景山委員	・食品の安心・安全に係る情報開示については誤った風評被害等が生じることが無いよう、開示内容・方法に十分な配慮が必要。	意見
	清水委員	・駅のコンコースや店頭等人が集まりやすい場所での展示及び電車内の広告の検討。	提案

	委員名	意見欄	
2. 食品の安全に関する情報提供・公開の推進	福原委員	・ホームページのアクセス数は、県下の世帯数から見るとあまりにも少ないように思う。それに頼らず、「県政だより奈良」の綴じ込みパンフにした方が効果があるのではないか。	提案
3. 食品の安全・安心に関する教育活動	瀧川委員	・予定企画の概要（いつ、どこで、内容等）を記載いただきたい。 ・「食育ボランティア」とはどのようなものか。	質問3
	上田委員	・高校教育の場での提供の可能性の検討。	提案
	中尾委員	・学校対象の講習会はだれに対してなのか。	質問4
	山本委員	・栽培マニュアルの公開。 ・生協等消費者団体との勉強会の実施。	提案
	清水委員	・食を通じた健康づくりを推進している団体の企画への支援や補助や共催をしてはどうか。県自らが進めるには限界があると思う。 ・学校給食を通じ、親として「食」の関心をさらにつなげてほしい。	提案 要望
	福原委員	・講習会の参加者660人はどのような方法で募集されるのか。	質問5
4. 食品表示の適正化推進	瀧川委員	・食品表示ウォッチャーの現状の評価及び表示の現状の問題点と対応方向をお聞きしたい。	質問6
	中尾委員	・スーパーの店頭で食品表示についてのポスターやチラシを設置するとわかりにくい表示が解消されるのではないか。	提案
	山本委員	・生産者の責任感を高めるため生産者名を表示及び食品の安全に必要な最低限の表示の義務付け。	提案
	景山委員	・食品の表示等に関して行政及び関係機関からの「過度な要請」が散見される状況があり、食品表示の監視指導体制については、監視員の教育の充実等適切な措置が講じられるよう要望。	要望
	清水委員	・消費者・流通・メーカー・生産者の正しい理解と重要性を認識することが重要。表示の適正化の現状はどのような状況か。	質問7
5. 県産食品の信頼性確保	瀧川委員	・予定企画概要、昨年度評価と改善点を記載いただきたい。	要望
	山本委員	・監視体制の充実及び食品安全基準の徹底。	提案
	清水委員	・県内農畜産物の安全のための根拠となる検査を行い、公表し信頼性を高めてほしい。 ・信頼できる食品を登録制にして地場の農畜産物の安全性をPRしてはどうか。	要望 提案

	委員名	意見欄	
5. 県産食品の信頼性確保	清水委員	・生産者自らが安全性の根拠を得るための検査を低料金でできる支援が必要ではないか。	提案
	福原委員	・農政課主催の食と農の祭典は、県の産物が展示・即売されるので、このような場でのPRも効果あると思う。	提案

視点2 生産から流通・消費における食品の安全確保の推進

	委員名	意見欄		
1. 生産段階における指導・監視の強化	瀧川委員	・検査検体が の4検体、 の2検体は少なすぎないか。 ・病性鑑定の昨年の内容評価と今年の重点をお聞きしたい。	質問8 質問9	
	上田委員	・食品衛生法第51条関連「管理運営基準」の奈良県版及び奈良県版HACCPガイドラインの設定。	提案	
	中尾委員	・生産履歴は自己申告や生産者のモラルの問題となるとその間のチェック機能はどうなっているのか。	質問10	
	山本委員	・出荷団体別の定期検査の実施。 ・自主的検査体制の確率。	提案	
	清水委員	・農薬適正使用徹底の状況は ・消費者の農薬使用の理解が進むようにリスクコミュニケーションを行う必要がある。 ・残留農薬分析のサンプリング数は、適正か。	質問11 提案 質問12	
			・生産者履歴記帳は生産者がより実行しやすいシステムを開発してほしい。	要望
	福原委員	・ の4検体の農産物とは何か。	質問13	
2. 製造、加工調理段階における監視・指導の強化	瀧川委員	・食品衛生監視指導計画の見直しの内容と今計画の重点は何か。 ・6の「巡回指導」との関係に記載すべきでは。	質問14	
	上田委員	・県内有力特定企業にターゲットを絞り、マル総、HACCP支援法の承認、認証取得、助言、指導の強化。	要望	
	中尾委員	・畜産品や魚介類など消費者にとってはまだまだ安心できないところがあるので、十分なチェックをお願いする。	要望	
	清水委員	・食品衛生監視指導計画の見直しは、どのような不都合が生じてどのように見直すのか。	質問15	

	委員名	意見欄	
3. 流通段階における監視・指導の強化	瀧川委員	・どこをどう監視・指導するのか目標が不明確、衛生監視指導計画の添付も必要と考える。	提案
	上田委員	・代表的な県産食品のトレーサビリティの推進(生産履歴記帳モデルの作成、現場公開)	提案
	中尾委員	・生産表示等、消費者にとってはそれを信じるしかないので、偽りのない様にしてもらいたい。	要望
	山本委員	・産地表示、消費期限表示の徹底指導。	提案
3. 流通段階における監視・指導の強化	清水委員	・食品検査の充実とは、どのような項目・品目の追加を検討しているのか。また、それは何故か。	質問16
		・薬事監視指導事業の十分な強化をお願いします。	要望
4. 試験検査体制の充実	福原委員	・輸入食品の監視体制の強化は是非実施いただきたい。	要望
	瀧川委員	・充実のための予算、体制は前年に比べどれだけ増加したか。	質問17
	中尾委員	・定期的に生産物を提供するために、無理な薬の使用等ないようにできるだけきめ細かな検査を願いたい。	要望
	清水委員	・食品添加物等の検査項目は何を基準に優先しているのか。予算や人の配置は十分なのか。検査機器の導入により効率化を図れるのか。	質問18
5. 食品の安全に係る調査の実施	瀧川委員	・と畜場でのSRM徹底除去の指導事業を現場と一体となって推進していただきたい。 ・(3と同様)	要望
	中尾委員	・(4と同様)	要望
	清水委員	・使用実態の不明な食品添加物のリスクは高いのか。何のリスクが高く、何に重点をおくべきなのか。 ・牛の全頭検査の必要性が食品安全委員会で議論されているのなら、リスクをできるだけ少なくできるような研究をさらに進めてわかりやすく情報提供してほしい。	質問19 要望
6. 自主管理体制の推進及び支援	瀧川委員	・食品衛生指導員の巡回指導は重要、3万施設の今年の重点は。	質問20
	上田委員	・食品等事業者に対するHACCPの理念や手法に基づく自主的かつ独自の衛生管理システム構築のための助言・指導の強化(食品業種別ガイドラインの作成、説明等)	提案

	委員名	意見欄	
6. 自主管理体制の推進及び支援	中尾委員	・ 第三者的立場の人による厳密な管理体制を義務づけてもいいのではないか。	提案
	山本委員	・ 出荷団体組織の育成による管理体制の強化	提案
	清水委員	・ 一番の課題がわかっているのは事業者の現場の方であるから、県とも連携してHACCPに繋がるようなレベルアップを図ってほしい。	要望
7. 食品の安全に係る関係機関との連携強化	瀧川委員	・ 先進事例の発表や交流の実施を要請し、参加いただきたい。	要望
	中尾委員	・ さまざまな情報を整理して迅速な対応を取れるように、システム作りを強化してほしい。	要望
	清水委員	・ 先進事例を学ぶと共に奈良県の独自性を考察。関係者に紹介して皆で学ぶ機会がほしい。	要望

視点3 新たな食品安全行政に対応するための体制等の充実

	委員名	意見欄	
1. 奈良県食品安全・安心推進本部及び奈良県食品安心懇話会の設置	瀧川委員	・ 推進本部の昨年度の状況、今年の方針を報告いただきたい。	要望
	清水委員	・ より多くの消費者の意見をどう反映していくべきか、年1回は多くの県民との意見交換会を開催しては。 ・ 推進本部の動きをもう少し県民に知らせてほしい。	提案 要望
2. 行政対応窓口の一元化	瀧川委員	・ 窓口整理による状況について以前の相談件数との比較等現時点での評価をお聞きしたい。	質問2-1
	清水委員	・ 県民にとって、苦情処理体制が整備され、適切に処理されるようになったのかどうかの具体的な評価は何でもって判断されるのか、また、その評価を教えてください。	質問2-2
3. 危機管理体制の充実	瀧川委員	・ 危害発生を想定した「図上訓練」を実施されてはいかがか。実施済みなら報告をいただきたい。	提案
	中尾委員	・ 事件発生後の対処法等、十分なマニュアル作りと担当者の柔軟性に期待。	要望
	清水委員	・ それぞれの課で策定したマニュアルがあるが、関連機関でうまく連携できるか聞かせてほしい。	質問2-3

《食の安全確保の為に取り組むべき事柄等についてご記入下さい。》

(瀧川委員)

・と畜場でのSRM除去についてはまだ徹底できていないと考えている。感染に係るプリオン量が不明でもあり、課題の拡散してからの牛の感染がわかって遅いからだから、ピッシングの廃止、背割り前の脊髄徹底除去が当面の課題と考える。ピッシングの廃止は現場人々の安全が必要だが、飛散や拡散による危険性の意味を現場の方々によく理解いただき、作業の工夫を現場と一体となって進めていただきたい。ダウン後直ちに枠に4足を固定し頭部をカット、引き上げて脊髄除去後4足先端部をカット等の工夫が必ずできると考える。また、脊髄除去の効率的な機械の開発・選定等もっと推進できるのではないかと。先進事例の発表や交流をもっと国に要請し、積極的な推進をお願いする。(要望)

・県全体の状況を把握できるよう「食品安全白書」等として何年かに一度発行してはどうか。(提案)

・情報公開、教育活動においては、県下の消費団体その他の関心ある団体に対して、「出前講座」が実施できるよう体制をとっていただきたい。(要望)

(上田委員)

・リスクコミュニケーションの充実を図るための各ステークホルダー(特に食品等事業者、生産者)に対するリスクコミュニケーターの養成事業の推進、具体化。(提案)

(中尾委員)

・先日厚生労働省より魚貝類等に含まれる水銀の安全性の見直しが発表され、一応基準として妊婦や妊娠の可能性のある方等は、控えめにということで、「週一回くらい」とあり、わかりやすくあっても不安感の残る発表であった。一般の人々は「普通に摂取。偏った摂りすぎは禁物」ということだが、どのくらい食べても大丈夫なのか、かえって疑問が残る。子供たちはどのくらい摂取しても安全なのか。ツナ缶等、「特段の注意はない。」というのも疑問の残る回答。このあたりも含めて安全確保の提供、県なりの独自の対応をお願いしたい。(要望)

(上野委員)

・前年度の成果もしくは発生した問題等が整理された資料の作成。(提案)

(景山委員)

・各種団体に属していない全ての事業者に対して、行政及び関係機関からの漏れのない情報発信及び指導監視体制の構築と危機管理マニュアル整備の指導。(提案)

(清水委員)

・食の安全確保に重点を置くことは、消費者としては喜ばしいことだが、一方で、安全の根拠を示すための生産履歴の記帳、HACCP手法の導入等を、生産者やメーカーに求めることになり、そのことが零細な規模が多い奈良県の地元事業者、生産者にとって大きな負担とならないか。特に農業分野の高齢化問題には、よほどの支援をしないと奈良県での「地産地消」はできなくなるのではないかと心配。地元事業者や生産者育成の為に、啓発、教育、支援や連携の為に、県が横断的に核となって体制づくりを進めてほしい。そのために、先進的な他府県の事例を学ぶ必要性を感じる。(要望)

・「基本方針」と他府県でできはじめた「条例」との効力の違いを知りたい。（質問24）

・「説得」ではない「リスクコミュニケーション」のあり方を学び、できれば奈良県の「リスクコミュニケーター」の育成ができることを希望。（要望）

（福山委員）

・食を通じた健康づくり推進事業計画が組まれているが、その中で生活習慣病対策について、現在子供たちの食生活の現状から原因を探り、家庭や個人の問題としてだけでなく、学校、PTA、栄養士会、消費団体等の関係機関と協働し、食生活の改善に取り組んでいくことが必須であると思われる。（提案）

（福原委員）

・今、日本の食料自給率は、40%しかない現状を考えると、後継者の問題が大きいと思う。農家の後継者を育成し、使われなくなった農地の活用を考えたり、物を大切に作る心を育てる食育も考えていかなければならないのではないかと思う。（提案）